

中学校

平成 17 年 度

教育研究員研究報告書

道 徳

東京都教職員研修センター

研究主題

他者を尊重し、自己を肯定する心をはぐくむ道德の時間の指導
一個に応じた指導の一層の充実を目指して－

目 次

I	研究主題設定の理由	2
II	研究の構想	3
III	第1分科会	
	テーマ「多様な個性を認め、人とのかかわり合いの中で、自他を尊重する心を育てる」 「個性・自他の尊重、他に学ぶ広い心を育てる」内容項目2-(5)についての指導	
1	内容項目設定の理由	4
2	研究の内容と方法	5
(1)	内容項目のとらえ方と研究方法	5
(2)	生徒の実態と指導のねらい	6
(3)	個に応じた指導の一層の充実	8
(4)	指導事例と考察	8
3	第1分科会の成果と課題	8
(1)	成果	12
(2)	課題	13
IV	第2分科会	
	テーマ「人間としての生き方を集団生活や地域社会を通して見つめる」 「地域社会の一員として自覚を深め、郷土を大切に思う心を育てる」内容項目4-(8) についての指導」	
1	内容項目設定の理由	14
2	研究の内容と方法	15
(1)	内容項目のとらえ方と研究方法	15
(2)	生徒の実態と指導のねらい	15
(3)	個に応じた指導の一層の充実	17
(4)	指導事例と考察	18
3	第2分科会の成果と課題	23
(1)	成果	23
(2)	課題	23
V	研究の成果と課題	24
1	研究の成果	24
2	今後の課題	24

研究主題

他者を尊重し、自己を肯定する心をはぐくむ道德の時間の指導
一個に応じた指導の一層の充実を目指して

I 研究主題設定の理由

現在、子どもの生活環境には極めて憂慮すべき状況があり、心の教育が大きな課題である。子どもにとって刺激のある事物が溢れ、膨大な時間を費やすゲームソフトに没頭して部屋にこもってしまったり、外で遊ぶことなく友達とゲーム以外の話題をもてなかつたりする実態がある。この傾向は、社会生活の模範となるべき大人社会でも同様で、インターネットゲーム等による夜型生活や社会参加をしない状況を引き起こしている。またニートと呼ばれる若者やフリーターと自ら称する青少年に対しても、自分を見つめさせ、目指す自分の姿をどう描かせたらよいのか苦慮をしている。

東京都教育委員会では、方策の一つとして道德教育、心の教育の充実を掲げ、子どもの知性、感性、道德心や健康・体力をはぐくみ、人間性豊かに成長する教育を重視している。教育目標を達成するための基本方針1では、人権尊重の理念を正しく理解し、思いやりの心や社会生活の基本的なルールを身に付け、社会に貢献しようとする精神をはぐくむこと。また基本方針3では、少子高齢化の中で新しいコミュニティづくりを目指す東京にあつて、活力ある社会を築いていくよう個人の生活を充実するとともに、一人一人が社会に貢献できるようにすることが求められている。

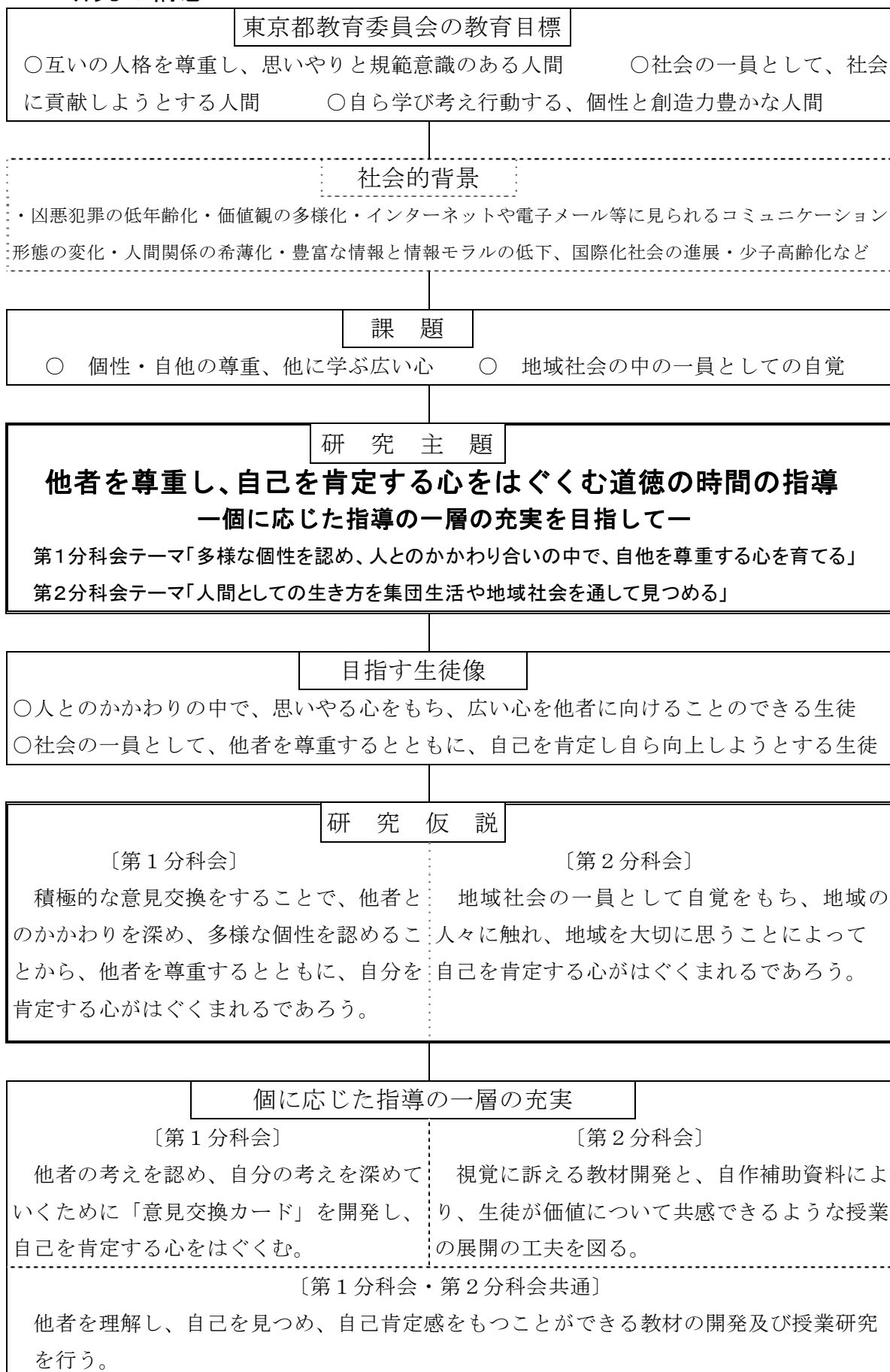
中学生の実態としては、他者を思いやる気持ちをもち、想像力を駆使して人間関係を築き上げていく力が不足している。また、自分に自信がもてずに、狭い価値観の中にしか自分を見いだせない状況が見られる。そこで、他者の個性を理解し、集団の中での自分の役割を自覚し、自分を振り返り自分を見つめ直す意識を高め、自己肯定感をはぐくむことが重要である。

特に、副主題である「個に応じた指導の一層の充実」という観点による指導を考えると、自己肯定感、生徒一人一人に内在するものであり、一人一人の生徒が個に応じて、自ら気づき、考え、行動しようとする道德的実践力の育成において極めて大切である。生徒は、自分を肯定できる気持ちから、自信や社会での役割を個に応じてもてるようになる。この視点で、道德の時間の在り方、教材の選定・開発、評価についての研究を図ることが必要と考えた。

以上のように、人間関係が希薄化している現状から、学校に対して、家庭や地域社会との連携を図り、子どもたちが他者とのかかわりを深めることが極めて重要である。同時に様々な課題や困難を、他人事と思うことなく、自分の問題として真剣に考えていくことができるような道德の時間の取り組みも強く求められているのである。

そこで、学校における道德教育の一層の充実を図り、要となる道德指導の時間を、生徒が自分を真剣に見つめ直し、よりよい生き方を目指すことができるように充実させていくことが大切と考えた。第1分科会では、内容項目2-(5)「他者の尊重と他に学ぶ広い心」を取り上げ、研究の視点を、「他の生徒とのかかわりと意見交換の在り方」とした。また第2分科会では、内容項目4-(8)「地域社会の一員としての役割」を取り上げ、研究の視点を「地域社会の一員として、自分を見つめ直すための道德の時間の構想の工夫」とし、研究を進めた。

II 研究の構想



Ⅲ 第1分科会

テーマ「多様な個性を認め、人とのかかわり合いの中で、自他を尊重する心を育てる」

内容項目2-(5)「個性・自他の尊重、他に学ぶ広い心を育てる」についての指導

1 内容項目設定の理由

個性とは、一人一人かけがえのないものであり、尊重されなければならないものである。また、個性は、他者とのかかわりの中で生かされ、認められ、はぐくまれていくものである。

中学生の時期は、自己への理解が深まり、ものの見方や考え方に違いが現れてくる大切な時期である。また、物事に対して様々な角度から考え感じ取ることができ、豊かな感受性を身に付けるのに適している。

しかし現在、子どもたちの家庭では、少子高齢化や核家族化が進み、家庭の中での人間同士のかかわりが薄れてきている。さらに、携帯電話のメール、チャットのやり取りやゲームの普及は便利性的があるが、反面、実体験を伴わない希薄な人間関係を子どもたちの間に作り出している。これらのことから、他者を思いやる気持ちの欠如や課題に対して、自分の問題として真剣に問題解決を図ろうとする力が十分ではないという指摘がある。

現在、生徒を取巻く環境には困難な現実があるがゆえに、家庭や学校で、生徒一人一人がかけがえのない存在として頼りにされ、信頼されるという経験をもつことは重要である。他者が自分を認めてくれているという信頼感から、自分自身の存在感を実感でき、自己実現の喜びを味わうことで自信をもつことができるのである。そして自分自身が一人の人間として大切にされているという実感は、自己肯定感や自己信頼感をより一層強固なものとし、そのことが相手の立場や考えを尊重できる人間へと成長させていくと考えたのである。

以上の視点から、第1分科会では内容項目2-(5)「個性・自他の尊重、他に学ぶ広い心」について焦点をしぼることにした。多様な個性を認め、自他を尊重する心を育てるためには、個に応じた指導をより一層充実させることが大切である。

そこで、本分科会では、生徒一人一人が、人とのかかわりの中で他者の意見に触れる機会を多くつくることで、人には個性があり多様な考え方があることを知ることができると考えた。また、他者の意見を受け入れられることで、自己を肯定する前向きな姿勢を引き出すことができると考え、以下の仮説に基づき研究を進めることにした。

<仮説>

積極的な意見交換をすることで、他者とのかかわりを深め、多様な個性を認めることから、他者を尊重するとともに、自分を肯定する心をはぐくまれるであろう。

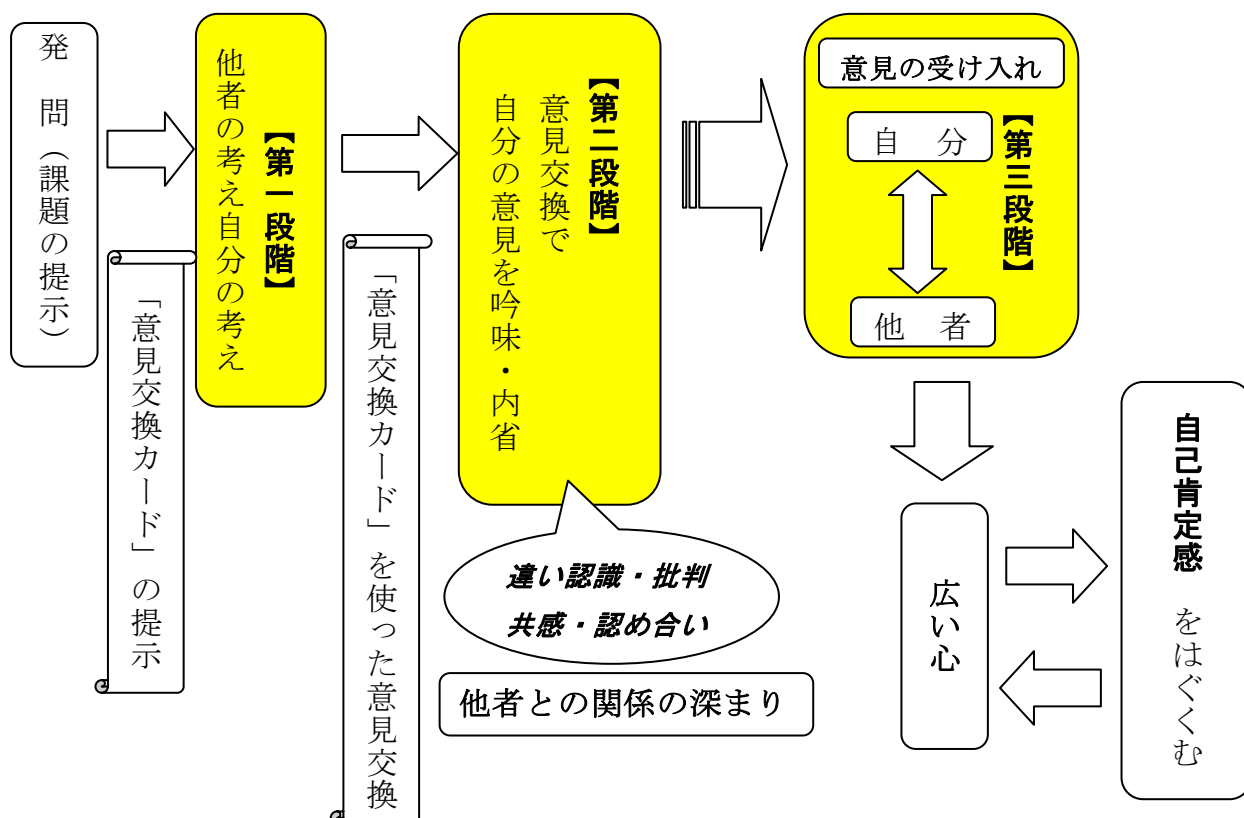
2 研究の内容と方法

(1) 内容項目のとらえ方と研究方法

内容項目2-(5)は、「多様な個性を認め、人とのかかわり合いの中で自他を尊重する心を育てる」が指導内容である。

人間は、物事についてその全体を知り尽くすことは難しく、自分なりの角度から、自分なりの視野で物事を見ることが多い。

中学生の時期は、ものの見方や考え方に自我が強いかかわり、そのことが個性を際立たせることにつながる。しかし個性とは、決して一人で伸びるものではなく、他に認められながら輝いていくものである。そこで、自分の意見をきちんと主張できた上で、他者の意見に触れる機会を多くすることにより、双方の違いに気づき、他者を認め、理解し思いやる広い心が育つであろうと考えた。この考えを生かし、他者の多様な個性から学び、自分の考えを深めていくような指導方法として、本分科会では「意見交換カード」を考案・開発した。このカードの特徴は、第一段階として、自分の考え・意見を明確にもつことができる。第二段階として、自分の考えを基に、他者との意見交換の場を設定することで、互いに異なる個性を認めあい、人間関係を深めることが期待できる。第三段階として、相手の考え方を理解し、自らも変わろうという心が芽生えてくることで、自分の考えだけに固執することなく、どのような人に対しても広い心をもって、相手の意見を聞き入れることが少しずつできるようになるのである。その結果として、自他を尊重する広い心をはぐくまれ、生徒の自己肯定感が生まれてくるのである。大切なことは、互いが、相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することである。この観点から、アンケート調査を行い、その結果に基づき指導計画を立て、研究を進めることにした。

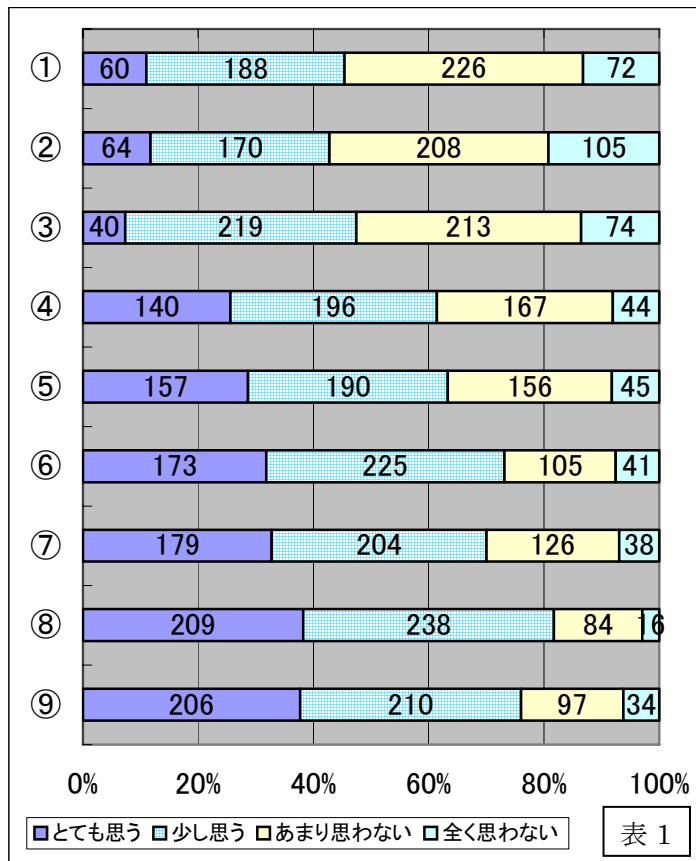


(2) 生徒の実態と指導のねらい

ア 実施したアンケートの内容 表 1

第一分科会では、生徒の実態を把握するために、平成17年7月都内公立中学校の6校、第1学年から第3学年まで549人について、自分自身に対する肯定感や他者との意見交換についての意識調査を実施した。

- ① 自分がかげがえのない大切な存在だと思いますか
- ② クラスの中で自分の果たす役割があると思いますか
- ③ 自分のことをまわりの人はわかっていると感じていますか
- ④ 自分の意見を他の人に聞いてもらいたいと思いますか
- ⑤ 自分の意見を他の人に聞いてもらうとうれしいですか
- ⑥ 自分のことを他の人に理解してもらいたいですか
- ⑦ 他の人の意見を聞いてみたいと思いますか
- ⑧ 他の人のことをわかってあげたいと思いますか
- ⑨ 他の人の意見を聞いて自分の意見の参考にしたいと思いますか



○アンケートの結果、生徒の8割近くが、「とても思う・少し思う」を選択し、「他の人の意見をわかってあげたい」「他の人の意見を聞いて自分の意見の参考にしたい」「自分の意見を他の人にわかってもらいたい」と望んでいることが分かる。このことから、生徒の『他の人とかわかりたい』と思う気持ちを大切にした授業展開を工夫することが必要であると考えた。

イ アンケートのうち、相関関係が強い内容について

○比較的相関がある質問は、次の3点であることが分かった。

(ア) ①「自分がかげがえのない存在と思う」 **[自分に対する存在感]** ⇔ **[他者の意見を聞く]**

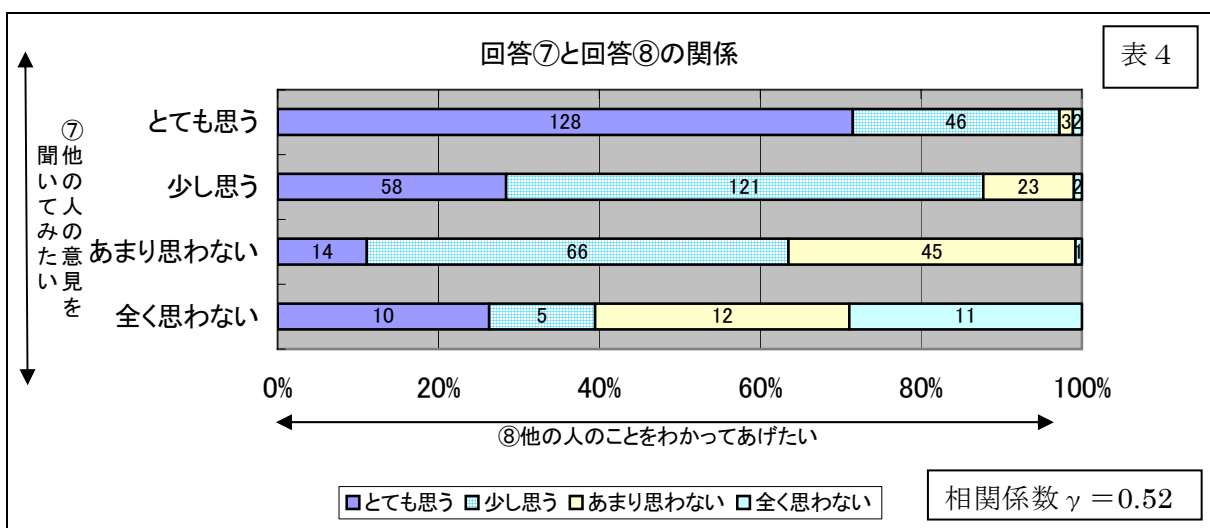
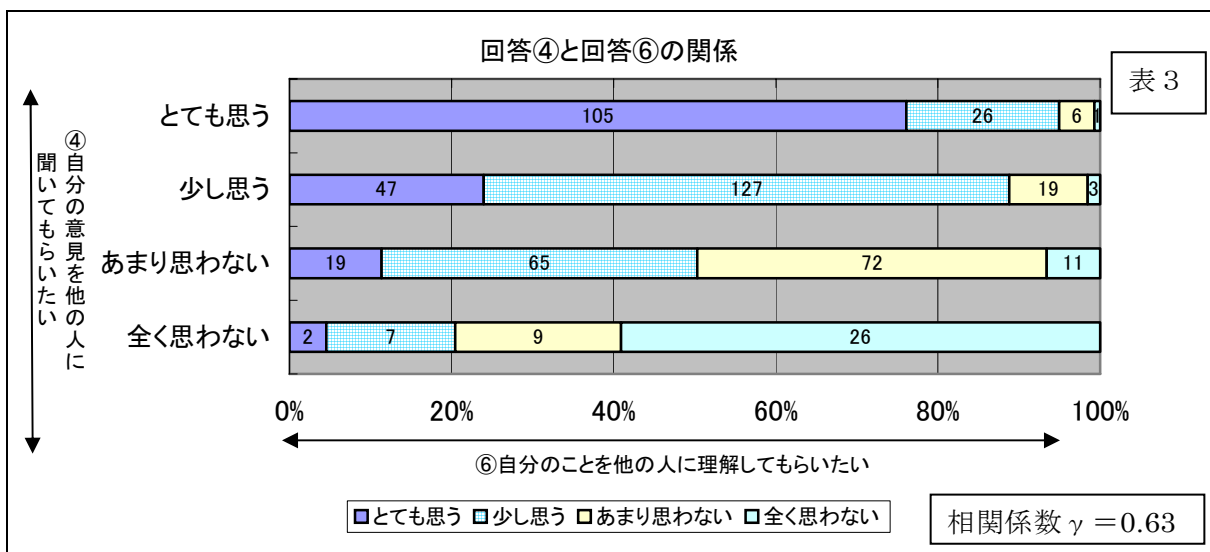
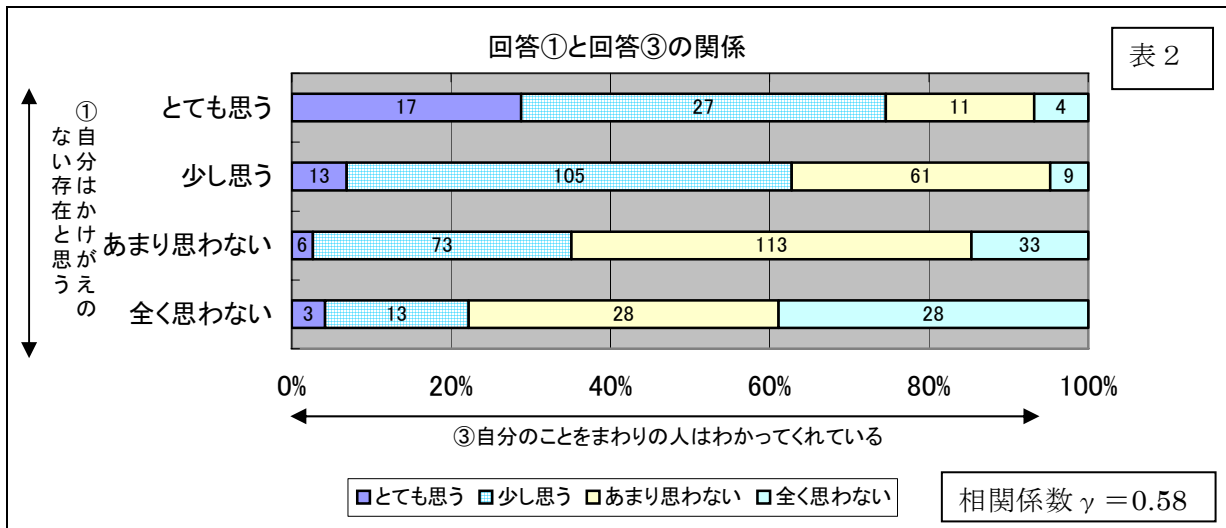
→③「自分のことをまわりの人はわかっていると感じている」 回答①と回答③ 表 2

(イ) ④「自分の意見を他の人に聞いてもらいたいと思う」

→⑥「自分のことを他の人に理解してもらいたいと思う」 回答④と回答⑥ 表 3

(ウ) ⑦「他の人の意見を聞いてみたいと思う」

→⑧「他の人のことをわかってあげたいと思う」 回答⑦と回答⑧ 表 4



以上、アとイの調査結果から、生徒は自分の意見を他者に伝えたり他者の意見を聞いたりしたいと考えるとともに、他者を理解し自分も理解して欲しいという気持ちが強いことが分った。

自分を理解してもらうことは、自分をかけがえのない存在として肯定的にとらえることにつながると考えられる。この点に注目し、他者とのかかわりを深め、意見交換を積極的に行うことから、互いの個性を理解し、自己を肯定する心をはぐくむことを指導のねらいとした。

(3) 個に応じた指導の一層の充実

ア 意見交換カードの開発

本分科会では、生徒が、多様な個性を認め、他者との関係を深め自己肯定する心をはぐくむために「意見交換カード」を開発した。このカードを使うことにより、自分なりの考えをもち大切にすること、そして他者と意見を交換し合うことで、自分と異なる意見や考えを聞き、自分の考えを重ねて受け止めていく見方や姿勢が「広い心」をもつことにつながると考えた。また、意見を交換することから、自分では気付きにくい相手の思いがけないよい面も発見することにも有効と考えた。

なお、カードの開発に際して、次の点を留意した。

① 中心発問について、自分の考えを整理できるように文章にまとめる欄を設定した。

② 自分の考え(①)をもとにして他者との意見交換をし、自分と意見の異なる点を記録する欄を設定した。

③ 他者との意見交換後、改めて自分の考えを再構成できるように書く欄を設定した。

イ 資料の選定

他者の多様な個性を認めるために、意見交換の時に、他の生徒の意見が肯定か否定かという二者択一にならないとともに、様々な意見が出しやすく誰にでも受け入れやすい資料を選定した。

意見交換カード		
① 今日の授業を受けて、自分が考えたり感じたことを書こう。		
② 他の人の意見を聞いて自分と同じ点や異なる点を記入しよう。		
名 前	記号	意見の異なる点などを書こう
	○	←記号○ (自分と同じ意見)
	-	←記号- (自分と異なる意見)
	△	←記号△ (どちらとも言えない意見)
③ 今日の授業を受けて、自分で考えたことを書こう。		
↓※③の質問 担任等がねらいに即して、書く視点を明確にした 表現を工夫する。(11ページ検証授業の記入例参照)		
年 組 番 氏 名		

(4) 指導事例と考察

ア 主題名 他に学ぶ広い心 [内容項目 2-(5)]

イ 資料名 『自分らしさー松井秀喜ー』 東京書籍 「明日をひらく」 中学道徳1

ウ 資料の概要

アメリカ大リーグのニューヨークヤンキースに在籍する松井選手の巨人時代のエピソードを題材にしている。平成14年のシーズン、松井選手は打撃成績で、三冠王に王手をかけていた。ライバルは、凡退して打率の下がることを防ぐために、最後の数試合はほとんど打


席に立たない作戦に出る。これとは反対に松井選手は打率が下がるリスクをあえて負い、打席に立ち続けた。結果、あとわずかなところで、打率部門でトップを逃してしまう。しかし、松井選手は世間のライバル選手への批判の声が上がる中、ライバル選手の気持ちを気遣った発言をしている。三冠王のタイトルを逃しても、なお松井選手はライバル選手の立場を考え、理解しようとする。

この姿勢から「他に学ぶ広い心」を学ぶことができる資料である。本時では、生徒が意見交換をする中で、考え方が異なるだけでなく、一歩進んで「自分らしさ」とともに、他者の個性を尊重する心を深めさせることができると考えた。

エ ねらい

他者の考えを認め、他に学ぶ広い心で「自分らしさ」とともに、他者の個性を尊重する心情を育てる。

オ 指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	1 松井秀喜選手について考える。 ○本時のねらいを明確にとらえる。	○写真を見て松井選手と気付く。 ●発問1「松井選手は、どんな人だと思いますか。」 ・プロ野球の選手 ・愛称がある人気者 ・優しく、尊敬できる人 ○本時のねらいについて、「今日は松井選手のことを書いた話を読んで、自分と異なる意見をもつ相手に対してあなたはどのような気持ちでかわっていくことが大切なのかについて考えてみましょう。」と説明。	○生徒の松井選手に対するイメージを書き出し、松井選手のプロフィールや人間性について気付かせる。 ○ねらいとする価値を十分に意識させる。 
展開 前半 15分	2 資料『自分らしさ』の内容について話し合う。 ○自分の考えをまとめる。 ○意見を発表する。 ○発表者の意見と自分の意見の異なる点を書き出す。	○資料の範読を聞かせ、松井選手について考えさせる。 ●発問2「タイトルを取得するために打席に立たないという選手に対して、あなたはどんな意見をお持ちか。」 ・仕方ない・ずるい・卑怯 ・正々堂々と戦うべきだ ・プロだし、タイトルのため当然だ ・人それぞれだから何とも言えない	○松井選手の言動が明確に伝わるように、丁寧に読み進める。 ○意見交換カードの使い方について説明する。 ※「三冠王」の過去の例を示し、極めて獲得が難しいタイトルであることを説明する。

<p>展 開 後 半 2 5 分</p>	<p>3 席を移動し、他の生徒と意見交換をする。</p> <p>○友達の見解と自分の見解と異なる点を見つけ、自分について考える。</p> <p>4 意見交換をして学んだことを、自分の問題として、発表する。</p> <p>☆自分を振り返り、自分を見つめ直す。</p>	<p>●発問3「自分の意見をもって、友達2人以上と意見交換をおこなってください。その時に、なぜ、相手はそう考えるのかをよく聞いて、相手から学んだこと、自分に生かせることは何かについても考えてみましょう」と指示。</p> <p>○自分と異なる意見を聞き、自分の考えに変化がおきたことに気付く。</p> <p>◎発問4「松井選手は『他者の発言や行動を否定しちゃいけない。まず認めて、理解して、敬意をはらって、批判はそのうえでやるものだよ』という考えですが、あなたは自分と異なる意見をもつ相手と、どんな気持ちでかかわっていくことが大切であると考えますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見をていねいに聞く ・意見には正解がない ・相手のことを考える 	<p>○意見交換カードを使って、友達2人以上との意見交換を促す。</p> <p>○相手の考えの理由や根拠を明らかにし、相手を理解し、広い心で受け入れられるようになることに気付かせる。</p> <p>○生徒一人一人が自分の考えを大切にできるよう十分な時間を与える。</p>
<p>終 末 5 分</p>	<p>5 教師の説話を聞く。</p>	<p>※説話の例</p> <p>「自分と異なる意見をもつ友達と接するとき、今日の授業で大切だと気付いたことを、日常の生活に生かしていきましょう。」</p>	<p>○生徒が新しく発見した考えや思いを、自分の問題として、十分考えていけるような内容を工夫する。</p>



カ 評 価

- ・自分の意見をきちんと持った上で、生徒同士が十分な意見交換をすることができたか。
- ・意見の異なる点に気づき、自他の個性を認め尊重する心情をはぐくむことができたか。

○「意見交換カード」の活用と授業展開における考察

生徒が自分の意見を相手に伝える方法の一つとして、「意見交換カード」を用意し、相互理解に役立てようとした。

「意見交換カード」を使った授業では、すべての生徒が、自分の意見を考えまとめることから始まる。意見をもたずには、意見交換ができない。生徒に意見をしっかりとらせることから、生徒は、課題を自分の問題として真剣に考え取り組んでいた。書くことができにくい生徒には、教師が支援し、意見をまとめさせることが必要である。

自分の意見を考え、まとめられたところから、友達との意見交換が始まる。今回は、まず発問に対して、意見を挙手により全員の前で発表してもらい、それに対して自分の意見と比較し、異なるところを書き出す。その後、異なる意見の生徒に、挙手により発表してもらい、生徒に「意見交換カード」の使い方を指示することにした。普段あまり話をしない人に対しても2人で意見交換をするように指示し、実施させた。これはいろいろな仲間とコミュニケーションをとらせ、互いに意見を出しやすくするためである。最初、生徒は戸惑っていたが、授業の最後には指示以上の仲間と意見交換をした生徒も多かった。意見交換は、頭の中で考えたことを言葉に表現しにくい生徒でも、カードに書いた自分の意見を伝えることができるので、全員が相手を見つけ意見交換をすることができた。

生徒は感想や意見によると、「意見交換カード」を使用しての意見交換後、自分と同じ意見の人が少ないことから、違ってよいということ、自分の意見をもつことの大切さ、意見交換をして相手の考えを知ることの重要性を感じた生徒が多数いることが分かった。

生徒は、自分の意見を常にもちつつも、友達関係などから、なかなか伝えることができずにいるが、この「意見交換カード」を使用した授業を通して、自分の意見を伝え、自分が相手に理解してもらえる満足感から、相手を理解し受け入れようとする気持ちに気付くことができた。

【検証授業における生徒の意見交換カードの実際】

意見交換カード		2年B組 松井 浩 氏 名 氏 名 氏 名
タイトルを取得するために打席に立たないという選手に対して、あなたはどんな考えでしょうか。		
松井選手の言うように、一人一人がみんな違う考えを持っているのだから、他人がとやかく言うものではないと思います。それに、その選手はタイトルを本気でとりたくてそういう行為をしたから、そのことに対しては好感は持てると思います。		
他の人の意見を聞いて自分と同じ点や違う点を記入しよう。		
名	前記号	意見の違う点などを書こう
Aさん	-	タイトルを取りたいなら打席に立って靴をばいり、という意見。
Bさん	○	タイトルは、誰でほしいもの、打席に立たないという方法もある。
Cさん	△	自分が(その立場から)そうするかもしれない、という意見。(とくにタイトルがほしいから)
Dさん	-	正堂のと戦うのが礼儀だから、打席に立たないでタイトルを取ろうとするのはあきらめよう。
違う意見の人とどんな気持ちでかわっていくことが大切であると考えますか。		
私と意見交換した人は、自分と少しちがう意見だったけれど、自分の意見を変えようとは思いませんでした。相手の意見もちゃんと理解して、自分の意見も書かなくて良かったのではないかと思います。相手のことを全て否定しない。正直な気持ちで話すのが大切だと思います。		

・打席に立たなかった選手の行動に対して、なぜそういう行動に出たのかを考えまとめた。

・意見交換の中で、自分と異なる意見をもつ友達の意見に触れ、自分の考えとどこが異なるのか書き出し、自分の意見の変化について、考えた。

・異なる意見の人と意見交換したことから、自分の意見をもつこと、相手の意見を理解することの大切さを学ぶことができた。

○ 意見交換カードの生徒の意見の分析

・相手の意見と自分の意見を考えておくと、意見交換がスムーズに話が進むのではないかと思います。また自分だけが意見を言うのではなく、ちがう人の意見を聞いてそれでまた「そうだな」と思ったり「ここはこうなんじゃないかな」と思ったりした部分がたくさんありました。だから、自分の意見だけで考えるのではなくちがう人が言った意見に「いいな」と思った意見を取り入れていったらいいと思いました。

・僕はまずその意見を認め、その後から自分の意見を言い、互いにその意見を尊重しあった方がいいと思います。無理に答を一つにする必要はないと思います。

・ほとんどが自分と違う意見でしたが、自分の意見は変わりません。でも、人の意見は十人十色だからしっかりと理解してから、自分の意見を言ってそれも理解してもらえたらいいなと思いました。

・異なる意見や考えの人が、毎日一緒にいる友達だとしたら、その人とまったく付き合わない分けにはいかないと思うので、相手の考えも聞きいれながら、自分が言いたいことも言って付き合っていくことが大切だと思います。

○生徒の意見には、自分の意見を明確にもち、人のかかわりや意見交換を通して自分の考えが深まっていくものである等、「意見交換カード」の活用成果が分かった。

3 第1分科会の成果と課題

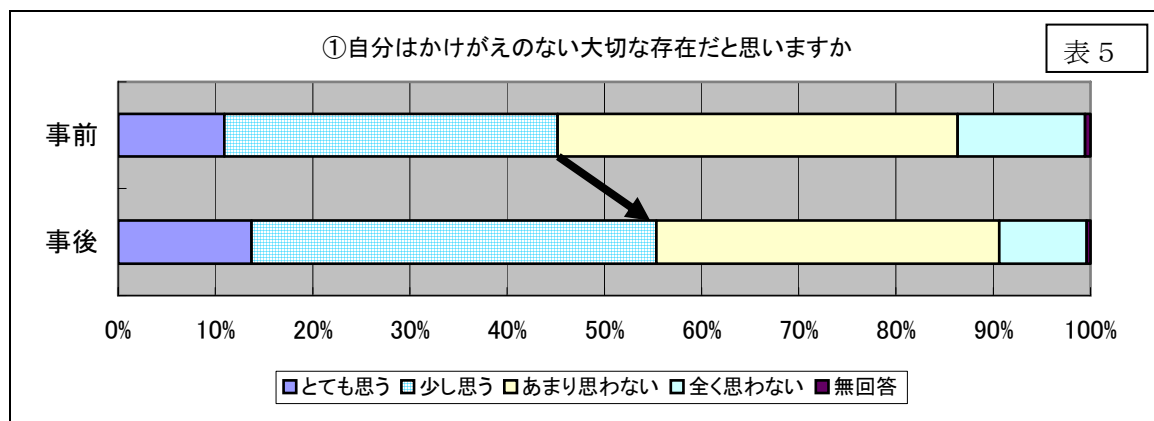
本分科会では、道徳の時間に「意見交換カード」を使い、コミュニケーション能力を高め、人間の多様性を認め合う授業を展開してきた。その後、生徒の変容を調べるために、7月実施のアンケートと同様の内容で、10月に再び調査を実施した。

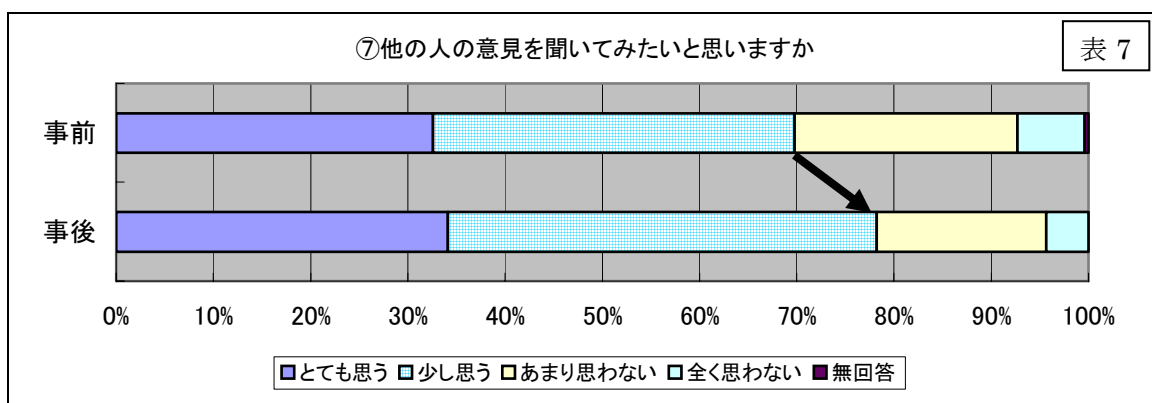
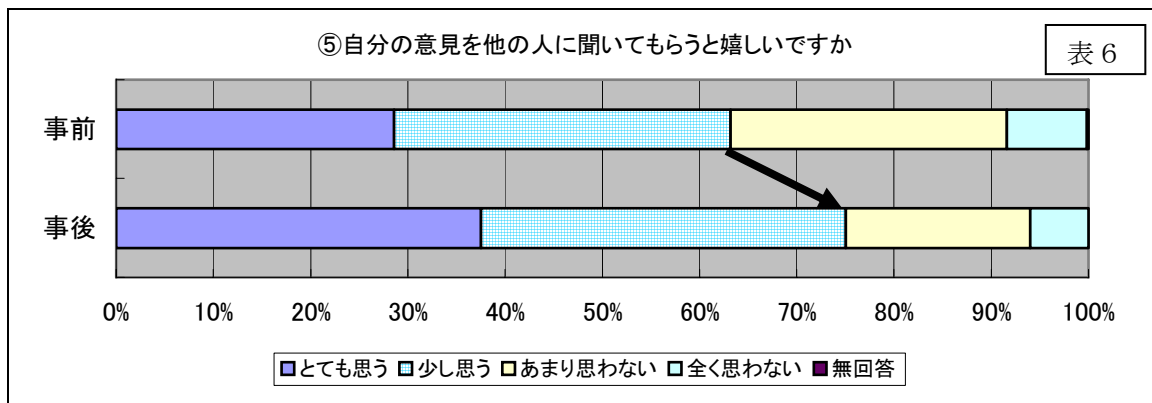
(1) 成果

今回の調査では、生徒の実態と指導のねらいで相関関係が強かった次の3つの項目について統計的に有意な変化が見られた。質問①の「自分はかけがえのない大切な存在だと思いますか」であるが、「自分をかけがえのない存在だ。」と感じられる生徒は、前回では45%にとどまっていた。意見交換カードを用いた授業の展開後には、これが55%に上昇した【表5】。また質問④の「自分の意見を他の人に聞いてもらいたいですか」の問いでは61%から66%へと増加がみられた

【表6】。さらに質問⑦の「他の人に意見を聞いてみたいと思いますか」では69%だったものが78%に増加した【表7】。

また、質問①④⑦以外の項目においては、質問⑥「自分のことを他の人にわかってもらいたいですか」は変化が見られなかったが、その他ではおおむね5%ほどの増加が見られた。特に、質問⑤「自分の意見を他の人に聞いてもらうとうれしいですか」においては63%から75%と大きく増加した。





○ 調査対象生徒に対しては、「意見交換カード」を活用した授業を、繰り返した結果である。今後も継続して授業実践をおこなう必要があるが、次のようなよりよい自己評価としての成果が期待できる。

- ① 意見交換する中で、他者とのかかわりを深めることができるようになる。
- ② 自分の意見を聞いてもらえたよこびから、他者の意見を受け入れ、多様な個性を認めることができるようになる。
- ③ 自分が認められたということから、自分はかけがえのない存在であることに気づき、自己肯定感が育つ。

(2) 課題

調査結果をみると、どの質問項目においてもその割合が増加した。他者とのかかわりの効果とともに、道徳の時間の充実によっても考えられる。以下のような課題があることも分かった。

- ① 「意見交換カード」の使用による一層の効果をあげるためには、生徒の多様な意見を引き出すことができるような資料教材を選定することが必要である。
- ② できるだけ多くの相手と意見交換をするように教師が助言しないと特定の相手とばかり意見の交換がされ、ものの見方や考え方の視野が広まらない。
- ③ 意見交換カードの効果について、継続的な調査及び研究が必要である。

道徳の授業で、生徒に自分の考えを述べさせることは生徒の心を開くことにつながる。限られた時間の中でも多くの生徒の発言があり、これが生徒相互の意見交換へとつながれば、自己肯定感や自他を尊重するといった道徳的心情を高めることができる。本分科会では今後も実践事例をもとに「意見交換カード」の改善を図っていく。

IV 第2分科会

テーマ「人間としての生き方を集団生活や地域社会を通して見つめる」

内容項目4－(8)「地域社会の一員として自覚を深め、郷土を大切に思う心を育てる」
についての指導

1 内容項目設定の理由

わが国の科学技術の発展は、私たちの生活に大きな変化をもたらしている。物が豊富に生まれ回り比較的不自由のない生活を送ることができるようになってきている。しかしその反面、物の豊かさが心の貧しさをもたらした部分もある。生徒が自分の生き方を見つけにくいことやいじめや不登校という形で問題化していることも少なくない。家庭では、保護者の単身赴任、核家族の増加等によって以前のような大家族での生活や家族団らんの場合や機会が少なくならざるをえない状況もある。また少子高齢化が進んだことにより、地域活動も以前ほどの活発さがなくなり、地域の人々が互いに接する機会や場が減少し、生徒と地域社会とのかかわりが希薄になっていることもある。

このような社会背景の中で、今、学校・地域社会・家庭の3者の役割をもう一度見直すことが重要である。特に、学校では「確かな学力」を、地域では「生きる力」を、そして家庭では、「温かい愛」をはぐくむことなどが大切であり、二者もしくは三者の連携を継続的に積み重ねていく活動が必要である。そしてそれぞれの役割や機能について、お互いが十分理解し合い、相互に開かれた姿勢をもち、積極的な連携を図ることが求められているのである。

中学生の時期は、自我の確立を強く意識するあまり、自分が自分だけで存在していると考えがちである。また自分のことは自分だけの問題である、他人の指示や影響は受けたくない、あるいは他人の世話にはならなくても生きていけるという考えになることもある。また、自分の将来の進路について考え深めていかなければならない時期に、自分は一人だけで生きているのではなく、家族や地域社会の人々によって支えられて生きていることを自覚させる指導が重要である。そして、個々の生徒が、自分の問題として、自分も将来は家族をもち、地域で生活し恩恵を受けることになっていくということを、地域の一員としての生き方や郷土愛という道徳的価値として、真剣に自覚を深めていくことが極めて大切であると考えている。

以上のことから、内容項目4－(8)「地域社会の一員としての自覚を深めること」に焦点を絞ることにした。多くの地域で、地域社会に対する連帯感が希薄になっており、こうした傾向が強まっている事実を考慮し、地域社会の人々との人間関係を問い直したり、地域社会の実態を把握させたりして、地域社会に対する認識を深め、その一員としての自覚を深めていくように指導していくことが大切である。

そこで本分科会では、以下の仮説に基づき研究を進めることにした。

<仮説>

地域社会の一員として自覚をもち、地域の人々に触れ、地域を大切に思うことによって自己を肯定する心をはぐくまれるであろう。

2 研究の内容と方法

(1) 内容項目のとらえ方と研究方法

内容項目4－(8)は「地域社会の一員としての自覚を深める」ことが指導内容である。

人間は、人から注目されたり評価されたりすることで、自己を再認識したり、やりがいを見つけ、さらなる向上心を磨こうとする。反対に社会の中での役割が見えないと自己を否定的に見てしまうことから、自分の尺度でしか物事を考えようとしなくなる場合がある。

中学生の時期では、発達段階として思春期を迎え、人とのかかわりの中で自己嫌悪に陥ったり、自己顕示欲が強くなりすぎたりすることから、自分の役割や存在が不確かなものになることがある。しかし、学校生活の中で、友人や教師、あるいは親から認められたり、よい評価をされたりすることで、自己肯定感が高まり、社会やこれからの未来への関心や興味が出てくる。

そこで、人間としてよりよく生きていくためには、地域社会の一員として自分の役割をもち、自覚を深めることが大切であると考えた。本分科会では、次の指導の観点から、内容項目のねらいの達成を目指した。

○生徒達が生活する地域の中の身近な事柄を題材とし、体験活動や日常生活等について、自分の問題として振り返るとともに、生徒達の興味関心を高め、自分を見直すきっかけとなるような心に響く資料を用いて、道徳的な心情を高める。

○地域社会の一員として、主体的に行動しようとする意欲や態度を育てる。

○郷土を愛し、先人達への尊敬の念を抱き地域とのかかわりを深くすることで、その中の一員であることについて十分に理解させる。

○地域に貢献し恩恵を受けることで、自己を肯定し成長につながることを理解させる。

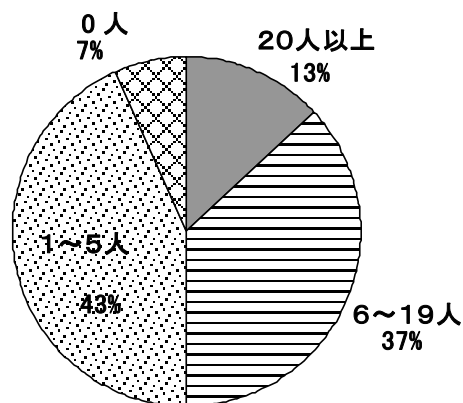
以上の観点をおさえ、道徳の時間における指導を通して、生徒達の中に人間としてよりよく生きていこうとする力や、人とのかかわりの中で自分の存在価値を確認させていくことにした。このことが、地域社会の中の一員として自覚をもち、自己を肯定する力につながると考えた。

(2) 生徒の実態と指導のねらい

第2分科会では、生徒の実態を把握するため、都内公立中学校の6校、第1学年から第3学年まで588人を対象に、地域について、生徒の意識調査を平成17年7月に実施した。

グラフ1は、地域の中でのかかわり方を調べるために、人とのかかわり方を「あいさつ」という行動に置き換えて調査した結果である。90%を超える生徒が学校や家庭以外でも、あいさつをしていることが分った。

【グラフ1】あなたは、近隣の人であいさつをする人がどの位いますか

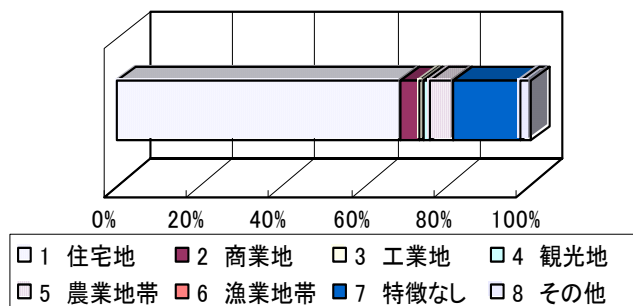


グラフ2は、生徒が住んでいる地域の特徴について尋ねた結果である。

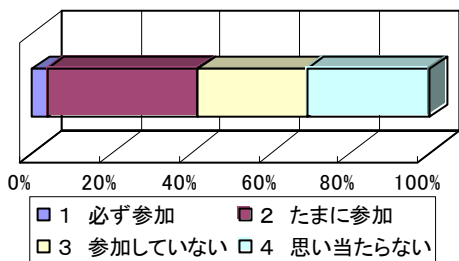
住宅地と答える人数（403人68%）が圧倒的に多い。次に多かったのが「特徴がない」という答え（95人16%）であった。

グラフ3・4・5より、地域に伝わる伝統行事に約40%の生徒が参加したことがあり、お祭りには、ほとんどの生徒が参加していることが分かった。しかし、地域のボランティア活動に対しては、消極的な傾向であることを示している。

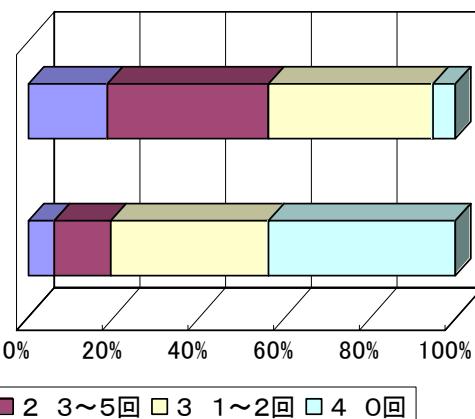
【グラフ2】この地域の特徴はなんだと思いますか



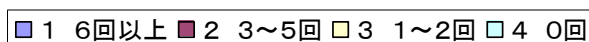
【グラフ3】この地域に昔から伝わる伝統芸能の催し物に参加したことがありますか



【グラフ4】地域のお祭りに年間何回くらい参加したことがありますか

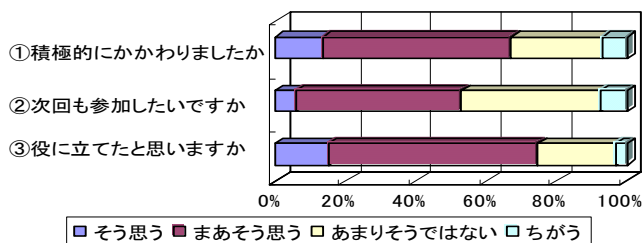


【グラフ5】地域のボランティア活動に参加したことがありますか



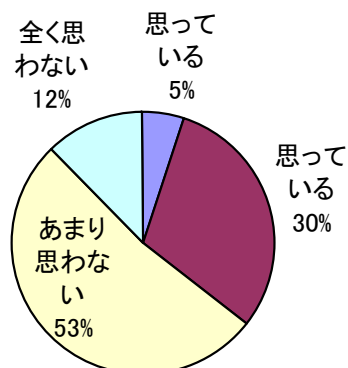
【グラフ6】⑤でボランティア活動に参加したと答えた人に聞きます

一方、グラフ6よりボランティア活動に参加した生徒の70%以上の生徒が、積極的にかかわりをもち、参加した際、役に立てたと感じていることが分かった。



グラフ7「将来地域に貢献したいですか」（質問⑦）に、あまり思わない（53%）が一番多かった。「将来この地域に住み続けたいですか」（質問⑧）に対しては、あまり思わない（45%）が一番多く、「地域から役に立つと思われる存在になりたいですか」（質問⑨）についても、あまり思わない（50%）が一番多かった。

【グラフ7】将来地域に貢献したいですか



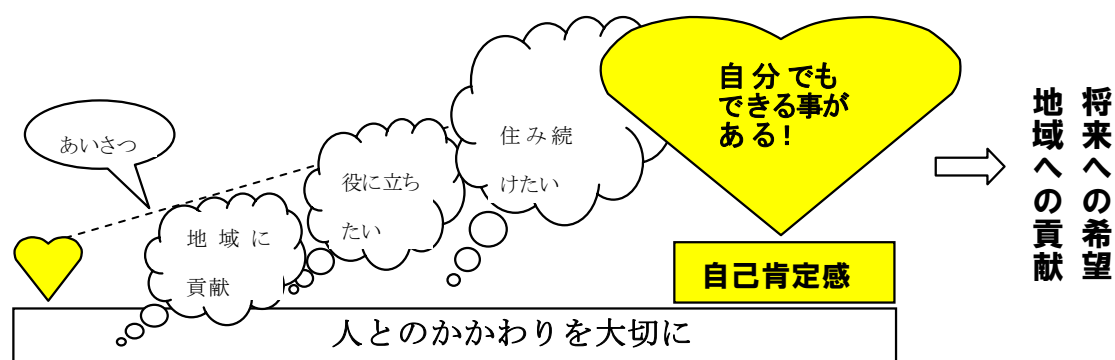
しかし、⑦⑧⑨の質問について調べた結果、「～したい」という意識の相関は高いことがわかった。

【相関係数 ⑦と⑧ $\gamma = 0.43$ ⑦と⑨ $\gamma = 0.59$ 】

この結果から、「将来地域に貢献したい」と強く感じている生徒ほど、「将来もこの地域に住み続けたい」「地域から役に立つと思われる存在になりたい」と強く感じていることが分かった。生徒の貢献等の意識の実態の割合は少なくとも、意欲を高める指導が大切と言える。

以上のことから、「地域に貢献し、将来もこの地に生活し、役に立ちたいと願う気持ち」は人とのかかわりを持ち、地域社会の一員としての自覚を深めることによりはぐくまれると考えられる。また調査結果から、地域性の違いだけでなく、学年を重ねるごとに地域との結びつきや人とのかかわりをもとうとしている傾向が見られた。

そこで第2分科会では、人とのかかわりと地域社会の一員の自覚をうながし、生徒のよりよい変容から自己肯定感を高め、将来への希望をもたせることを指導のねらいとした。



(3) 個に応じた指導の一層の充実

<授業構想と補助資料の工夫>

本分科会では、調査結果を基に、生徒が道徳の授業の中で内面的な変容を見出すことのできる教材を工夫することにした。日頃教師が、道徳教材の中で、4—(8)内容項目として取り扱われている教材を道徳の副読本資料から収集してみたが、本時のねらいに合うとともに生徒自身が自分の身近な内容として受け取ることができにくいと考えた。そこで地域とは一体何か、どのようなことで地域は守られているのか、また地域を愛するためには何が必要かなどについて検討をした。

結論として、顕著な特徴や、伝統文化、有形文化財、無形文化財などの特徴的なものが無くても、そこには人が住み、人とのかかわりの中で、地域への愛着や郷土愛ははぐくまれるのではないかと考えた。地域の中であいさつを交わし、交流をもつことを繰り返すことから、自己のよさを認め、自己を肯定する力につながるのではないかと考えた。この考えから、ねらいの達成を図るための授業構想とそれに付随する補助資料を開発した。

本分科会では、授業構想の開発に当たって次の点に留意した。

- * 生徒の実態を重視するため、アンケート調査を事前に行い、その結果から、地域に対する関心度や貢献度を考慮した授業展開と補助資料を開発する。
- * 導入で生徒一人一人が視覚的に、地域を再認識できるような補助資料を用意する。
- * 地域のよさを、人とのかかわりの中で気付かせるような補助資料を用意する。

また補助資料を開発するに当たっては、次の点を工夫した。

- 生徒にとって、身近な内容を含むものであること。
- 生徒の意識の実態に合った内容であること。
- 関連する道徳的価値を、生徒一人一人の考えとして導き出せるものであること。

(4) 指導事例と考察

ア 主題名 内容項目 4—(8)「主題名 地域社会の一員としての役割」

イ 補助資料名 『地域のよさとは』(第2分科会 自作)

ウ 補助資料の概要

中学2年生の「浩子」を含めた4人の生徒が「地域の特徴と職業」について調べるといふ宿題のために、校外に出て何か特徴となるものを探そうとするが、手がかりとなるものさえ見つけられなかった。また、地域のいろいろな人々に話を聞いてみるが、その話の中からも、彼女たちが探し求めているようなことは出てこなかった。しかし生徒たちは、地域のいろいろな人々と触れ合ったことから、その人たちの温かさや優しさを感じ取り、あらためて自分たちの住んでいる地域のよさについて気付くとともに、地域の一員であることを自覚する。

以上がこの資料の概要であるが、本資料を活用して地域社会の人々との人間関係を問い直したり、地域社会の実態を把握させたりして、地域社会に対する認識を深め、その一員としての自覚を深めさせたいと考えた。


エ ねらいとする価値について

多くの地域で、地域社会に対する連帯感が希薄になる傾向が見られる。さらに中学生の時期は、自分を強く意識しすぎて自分だけで存在していると考えがちになることがある。また他人の指示や影響は受けたくない、あるいは他人の世話にはならないという考えになることもある。そこで、自分だけで存在しているのではなく、家族や地域社会の人々によって自分が支えられて生きていることを自覚し、さらには自分も将来は家族をもち、その地域社会の一員として生きていくという自覚を深めることは大切と考えた。

【ねらい】自分が住んでいる地域や人のよさに気付き、地域社会の一員としての自覚を深める。

オ 指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	1 地域の特徴を考える。 最近の写真だけでなく、開校時のものや生徒の生まれた年の写真を使うと効果的	○学校周辺の写真を見せる。 ●発問1「この写真を参考にこの地域の特徴は何か考えてみましょう。」 ・住宅地である。 ・特別なことはない。  例：学校周辺の航空写真	・写真の風景以外にも生徒一人一人が住んでいる地域のことも考えさせる。  例：田んぼがある  例：市民球場がある
	○本時のねらいに意識を向けさせる。	・補助発問「今日はあなたたちが住んでいる地域社会について考えていきたいと思います。」	・考える視点を明確にさせる。

<p>展開前半</p> <p>30分</p>	<p>2 資料を読み、内容を把握する。</p> <p>○資料について考える</p> <p>3 ねらいとする価値に一人一人の生徒が自分を振り返りながら気付く。</p>	<p>○補助資料の範読を聞かせ、自分自身の問題として考えさせる。</p> <p>●発問2「途中、主人公の浩子さんのことばが抜けているところがありますが、そこにはどんな言葉が入ると思いますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人と話しができたね。 ・みんな一生懸命答えようとしてくれてうれしかった。 <p>※生徒の考えを板書し、整理する。</p> <p>◎発問3「彼女たちはどんなことに気付いたと思いますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の温かさ ・親切な人が多いこと ・特別な地域の行事だけでなくとも地域の人々はかかわることができる。 <p>★ …ねらいとする価値発見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の言動を明確にするために声色を変えて読む。 ・ワークシートを活用し考えをまとめさせる。 <p>ねらいとする道徳的な価値に、自分の問題として気付かせていく。 ※授業構想から道徳的価値に気付かせていく。</p> <p>生徒は住んでいる地域についても同じように考えられるかもしれないと、一人一人に自分の問題としてとらえさせたい。</p>
<p>展開後半</p> <p>10分</p>	<p>4 地域によさや課題について、自分の問題として考える。</p> <p>○自分の地域に対して自分ができることを考える。</p>	<p>●発問4「今自分が住んでいる地域によさや課題は何か考えてみましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園、緑が多い。 ・駅が近く便利で住みやすい。 ・落書きが多い。 ・地域の人とかかわりが少ない。 <p>●発問5「この地域のいろいろな問題に対して、あなたたちが地域をよくするためにできることは何でしょうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分からあいさつをする。 ・地域の人々と知り合う工夫をする。 ・地域清掃に参加する。 ・地域の祭等の行事には参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民のよさについて考えさせる。 ・ペアやグループで話し合わせる。 ・地域のよさは、自分から創っていくもの、または人々との交流から生まれるものであること等に気付かせる。 
<p>終末5分</p>	<p>5 教師の説話を聞く。</p>	<p>○校内ペンキ塗り、草むしり、保育ボランティア、地域清掃など、生徒たちが日常にかかっていることに触れながら、地域とのかかわりについて、自分の問題となるような意識付けを図りながら話していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが自分たちの問題として考えられる説話になるよう配慮する。

カ 評価

- ・地域社会の一員としての自覚を深めることができたか。
- ・自分たちが住んでいる地域のよさに気付くことができたか。
- ・補助資料を授業展開の中で効果的に活用できたか。

キ 補助資料（一部抜粋）

『地域のよさとは』

総合的な学習の時間の授業で、先生から「地域の特徴と職業」についての調べ学習の宿題が出た。私の地域には、これといった特徴がない。自慢することも無いと思っている。

それに引き換え、一年生の時、林間学校で富士山のふもとにある村に行ったが、そこに住んでいる人に話を聞いた時には、びっくりした。

（中略）

駅前のお店に着くと、私が見んなより先に中に入り、「こんにちは。〇〇中の生徒なんですけど、この地域の特徴について調べています。何か教えてもらえませんか。」とおじさんに声をかけた。

「ああそう。うちのおじいさんなら昔から住んでいてこの辺りのことはいろいろと知っているんだと思うんだけど、今、出かけているからね。私は・・・。」

とお店のおじさんは顔に手を添えながら黙ってしまった。

（中略）

「今日は疲れたなあ。結局何にもわからなかったなあ。」と高志も小声で言った。

「今日はなんかよくいろいろな人としやべったよな。」と良夫が笑顔で言った。

その言葉を聞いて私は、

「でも、

※

」

と続けて、自分の思ったことを話してみた。

「あつ、そうか。」と突然、道子が声を発した。

四人はすがすがしい気持ちで家に向かった。

気がつくとき空はすつきりと晴れていて、西の方にはきれいな夕日が見えていた。

※ねらいとする価値（生徒が自分の問題として、創造し考える部分）

ク 授業の考察

主体的に道徳的価値に気付かせる授業構想と補助資料の活用による各発問に対する生徒の考え等の分析を以下に示す。

発問2 途中、主人公の浩子さんの抜けている言葉には、どんな言葉が入ると思いますか。

【生徒が空白部分に記入した言葉⇒ねらいとする道徳的価値の発見】

※生徒の考えは、おおむね3観点にまとめられた。

【人の優しさとよさ】

- ・この地域に住んでいる人々は、皆親切だ。
- ・どの人もちゃんと答えてくれた。
- ・この町には優しい人がたくさんいるということがわかった。

【人とのコミュニケーションのよさ】

- ・この町の人たちといろいろと話して触れ合うことができたよ。
- ・一緒の地域に住んでいるいろいろな人たちと話ができたから、この体験も一つの学習になったよね。

[町のよさ]

- ・お祭などはないところだけど、よい人はたくさんいる。
- ・いろいろなことを話してくれたということは町のみんなが親切だということだと思うからこの町の特徴は、人が親切だということだ。
- ・特徴が見つからなくてもこの地域のままでいいと思う。
- ・私たちの町に特徴はないけどすばらしい歴史があるじゃない。
- ・この町の特徴はわからないけど、昔のことをいろいろ聞いてよかった。
- ・この町にあるお店や住んでいる人についていろいろ知ることができたね。

○補助資料の文中にある空欄に入る言葉を生徒に考えさせた。どの生徒も、地域を特徴あるものとしてとらえることにより、人とかかわることの喜びや人々の温かさを、授業構想と補助資料から考えていることが分かった。人の意見を聞くことから、さらに自分自身も問題として、ねらいとする価値について自覚し確信していく様子をワークシートより読み取ることができた。

発問 3 「彼女たちはどんなことに気が付いた
と思いますか。」

- 自分を取り巻く人々の存在に気づき始める記述が多く見られた。
- ・地域の人々が温かく、仲がよい
- ・昔からある町であること
- ・地域の人々の交流が多いところ
- ・この地域には、とても有名な場所はないけれどみんないい人たちだということ
- ・この町はみんながいることで成り立っていること
- ・この地域には親切な人が多いこと
- ・みんなの優しさがこの町の一番の特徴なのだという
- ・目立った特徴はなくても他にいいところはたくさんあること

道徳ワークシート

Q1 この写真を参考にこの地域の特徴は何か考えてみましょう。

Q2 途中、主人公の浩子さんの言葉が抜けているところがありますが、ここにはどんな言葉が入ると思いますか。

Q3 彼女たちはどんなことに気が付いたと思いますか。江戸川区平井4-3-3本藤ビル203

Q4 自分たちが住んでいる地域について、考えてみましょう〈よい点、問題点〉

Q5 自分たちが住んでいる地域のいろいろな問題に対して、あなたたちができることは何でしょうか。

組 氏名 (_____)

発問 4 「今自分が住んでいる地域のよさや課題は何でしょうか。考えてみましょう。」

- 生徒たちが住んでいる地域のよい点、問題点について考えさせた。検証授業を行った中学校では、自分たちの地域に対して、グループ討議をさせた。
- ・高速道路などで空気が汚い。
- ・ゴミのポイ捨てが多い。
- ・祭りの時はあいさつするけれど、それ以外はいさつしない。
- ・自然が美しく、人々の仲がよい。

発問5 「この地域のいろいろな問題に対して、あなたたちが地域をよくするためにできることは何でしょうか。」

○自分たちが住んでいる地域のいろいろな問題に対して、自分たちができることは何かと尋ねると、発問4で回答した問題点について、積極的に解決していこうとする前向きな意見が多く見られた。生徒は地域の人と交流を深め、人とのつながりを大切にすることが大切であると感じ取っていた。つまり、他者の意見を聞いたり、自分で問題点を挙げたりすることで、改善策を見だし、自己を肯定的に評価していく変容ぶりが見られた。

- ・もっとボランティア活動を行いたい。
- ・清掃美化のクリーン活動に参加だけでなく、学校としての運営にも加わる。
- ・地域の人に地域を大切にする気持ちを、学校新聞などで伝えたい。
- ・たくさんの人に、自分たちからあいさつをきちんとしていく。
- ・地域の方々を、いろいろな行事に招いたりして交流を深める。

◎ 生徒の変容について

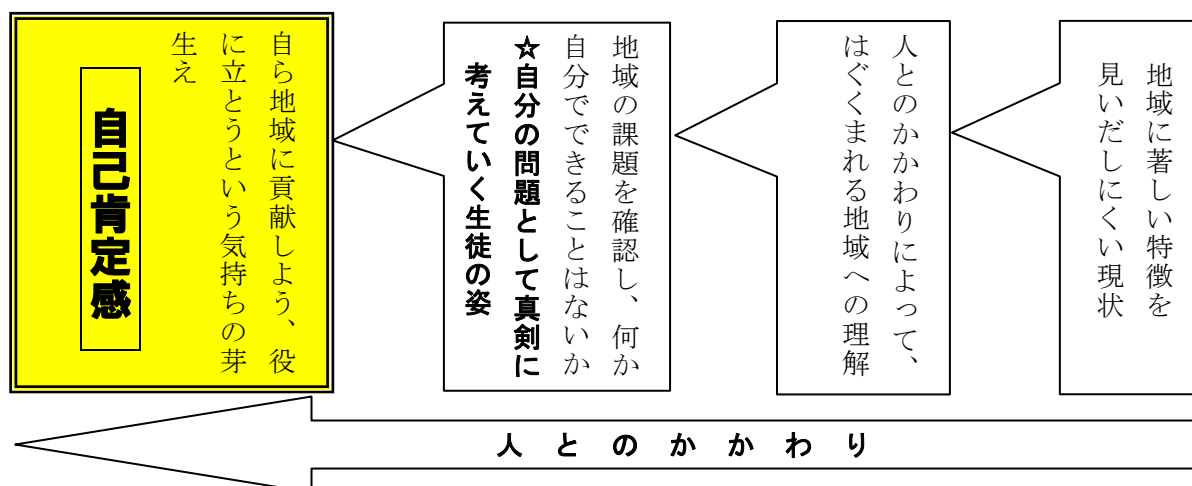
検証授業を通して自分が住んでいる地域について、「家が多い」「駅から遠い」「ゲームセンターがない」など、よさや課題について具体的に考えることができた。

検証授業以前に実施したアンケートでは、「地域に貢献したいと思っていますか」、「地域から役に立つと思われる存在になりたいと思いますか」という設問に、「すごく思っている」「思っている」という肯定的な回答をした割合はともに低かった。

しかし、検証授業を通して、地域について考え、地域へ貢献できることを探した結果、生徒は「草むしりの手伝い」「保育園でのふれあい」「生徒会のおはよう清掃」など、ねらいとする道徳的価値について、自分の問題として考え、自分で何ができるのかと真剣に考えていることが判断できた。また日常生活で、自分でもできる地域活動があるのかも知れないと、地域に貢献できる自分の可能性に気付いていることが分かった。

さらに生徒のこのような気持ちは、自分への信頼、自分を肯定的にとらえていく前向きな生き方としてとらえることができた。

〈検証授業で補助資料を使うことによる生徒の変容〉



3 第2分科会の成果と課題

(1) 成果

ア 道徳的価値を自分の問題として考えるための授業構想の開発

- ・ 道徳の時間の授業の展開部分に、生徒がねらいとする価値内容を考えさせる部分を組み込むことから、生徒に積極的に課題を自分の問題として考えさせることができた。

補助資料の文中に空白部分を設定し、生徒が主人公の立場に立って考えられるようにし、主人公になったつもりで言葉を書き込んだ。さらにこの一文については道徳的価値を生徒自ら導き出すような工夫をした。この工夫は、生徒自身が地域について理解を深め、地域とのかかわりを考えることに有効であることが分かった。

- ・ 基礎的な研究と実態調査から、生徒達が地域の一員として、自覚や郷土愛を身近な地域から感じ取ることは容易ではない実態があった。一人一人の生徒が豊かな人間関係や温かい人々の在り方が大切であることを考えさせていく授業構想が極めて重要である。特定の地域や特異な状況だけに注目させるのではなく、どこの地域にもあてはまるような場面構想を工夫することは、生徒が地域の一員としての自覚をもち郷土を愛することにつながることに有効であることが分かった。

イ 資料の活用と提示方法の工夫

- ・ 補助資料を活用することで道徳的価値の自覚を深めていくことは、生徒に自分という人間のあり方や生き方を真剣に考えていくためのよりよい自己評価ができる力を身にさせていくことに有効であった。
- ・ 生徒にとって身近な資料の提示は道徳的価値への意識付けには有効な方法であった。検証授業の導入で、学校周辺の写真を生徒に提示することで自分の住む地域を意識させることから、生徒は「このあたりの写真」「中学校から撮った写真だ」と課題を自分の問題として考えることができた。

(2) 課題

生徒の心に響く資料の収集と活用を図り、道徳性の実践力を育成するために、道徳の時間における道徳的価値の自覚をうながすことができる授業構想として、指導過程・指導方法を工夫し、改善を図る必要がある。

ア 生徒が真剣に自分を振り返り、自分を見つめ直す魅力ある教材の開発や活用

※本研究で開発した補助資料の改善

イ 道徳的価値を、自分の問題として自分なりに発展させていく指導の工夫

ウ 道徳の時間で、日常の生活の中で、地域に密着した取り組みの活用の工夫

エ 生徒の道徳的価値の深まりと広がりをうながすための補助資料やワークシートの開発

オ 生徒が自分の問題として考えていく道徳授業の時間の特質を理解するとともに道徳的価値の自覚を深めるための指導技術の向上

V 研究の成果と課題

本研究は、豊かな人間性を育てる道德教育の一つとして「他者を尊重し、自己を肯定する心をはぐくむ道德の時間の指導」と研究主題を設定し、個に応じた指導の一層の充実を図るために、二つの分科会に分かれ、道德の授業の在り方について研究を進めてきた。

1 研究の成果

(1) 自己肯定感を高める授業構想と補助資料の開発

第1分科会では、副読本等の資料を生かすために、「意見交換カード」を作成し、生徒同士が楽しみながら授業が展開できるとともに、誰とでも意見が交換できるような工夫を行った。この成果としては、生徒は自分の考えを基に他者の考えを比較し、よりよい考えをもつとともに、自分を振り返り見つめ直していくことが分かった。第2分科会では、自作の補助資料（道徳的価値を書き込むワークシート）を活用することから、ねらいとする道徳的価値が社会の一員としての自覚や郷土愛であり、生徒が自覚しにくいといわれる内容項目であったが、自分の問題として真剣に考えていく多くの生徒の姿をとらえることができた。

(2) 資料の提示と活用方法の工夫

第1分科会では、授業展開の適切な場面で、生徒に「意見交換カード」を提示する時に、人それぞれに立場があり、考え方が異なることや、多様な個性を認め合うことで、「自分らしさ」とともに他者の個性を尊重する気持ちを深めさせることができた。またカードを有効に活用することで、他者に学ぶ広い心をはぐくまれることが分かった。第2分科会では、生徒の実態調査から、地域を大切に思う心が薄れていることが分かった。そこで、地域に大きな祭等の大掛かりな行事や特徴がなくても、授業展開の工夫と補助資料の提示により、生徒は自分なりにかかわっていく中で心の交流が生まれていくことを、地域の一員として自覚するとともに、自己肯定感や有用感として感じていくものであることが分かった。

(3) 課題を自分の問題として考えるための自己評価をする力の育成

本研究では、「意見交換カード」や補助資料の開発及び活用により、仲間との交流を深めながら、生徒は課題について真剣に考えるとともに、道徳的価値の自覚を個に応じて深めていくことが分かった。このことは、現行の学習指導要領の重要な観点でもある生徒の自己評価能力を高め、道徳の時間における意欲や態度、取り組む姿勢まで発展できることが分かった。

道德の授業の展開の工夫は、正に、指導と評価の工夫をとして、研究主題「他者を尊重し、自己を肯定する心をはぐくむ道德の時間の指導」に迫ることであったといえる。

以上、中学生のこの時期は、自分の意見や立場に自信がもてなく、人の意見を聞き入れる気持ちや余裕がなくなってしまうがちになる発達段階である。しかし本研究を通して、生徒が人の意見に耳を傾け、さらに自分の意見を表現し、互いを認め合いながら、他者を心から尊重し、自己を肯定していく力を身につけていくことを見いだすことができた。

2 今後の課題

- (1) 自作補助資料・「意見交換カード」等の改善を通して、道德の授業構想の在り方の開発
- (2) 効果を検証するための生徒の実態把握と長期的変容の観察
- (3) 学校・地域・家庭の連携を、道德教育全体を通して図るための工夫
- (4) 道德の時間で、自己肯定感をはぐくむための適切な評価や助言の工夫

平成17年度 教育研究員名簿（中学校・道徳）

	区市町村名 地区	学 校 名	氏 名
第1 分科会	中 央 区	佃 中 学 校	鬼 頭 朋 子
	大 田 区	馬 込 東 中 学 校	椎 野 要
	練 馬 区	光 が 丘 第 四 中 学 校	○河 合 仁
	江 戸 川 区	清 新 第 一 中 学 校	柳 岡 裕 幸
	西 東 京 市	明 保 中 学 校	★佐久間 豊子
	日 の 出 町	大 久 野 中 学 校	目 黒 正 子
第2 分科会	大 田 区	大 森 第 六 中 学 校	☆柴 崎 裕 子
	板 橋 区	高 島 第 二 中 学 校	住 岡 美 智 子
	足 立 区	加 賀 中 学 校	金 栄 晃 弘
	葛 飾 区	青 戸 中 学 校	遠 田 勉
	国 立 市	国 立 第 二 中 学 校	○高 橋 栄 一
	町 田 市	木 曾 中 学 校	菅 和 代

★総世話人 ☆副世話人 ○分科会リーダー

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 鈴木 明雄
指導主事 杉尾 泰子

平成17年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成17年度 第12号

平成18年1月16日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974
印刷会社名 株式会社 今 関 印 刷